

こんしゅう へん じん
今週のことば「**変人イエス**」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》マルコによる福音書 3:20-35

ふくいんしょ しゅ ちょう
マルコによる福音書の主張

ねんはっぷ だい こう
1963年発布された第2バチカン公
かいぎ てんねいげんしょ てんねい
会議の『典礼憲章』で、「典礼において、
かみ たみ かた いま ふくいん
神はその民に語り、キリストは今も福音
つ さいぎ
を告げている」(33)ので、「祭儀における
せいしょ ろうどく ほうふ へんか
聖書の朗読を、いっそう豊富で、変化
と てきせつ かいてい
に富み、また、より適切なものに改訂す
ます
ること」(35)が勧められました。

しうじつ せいしょろうどく じゅ
そこで、主日のミサの聖書朗読箇所の
はいぶん ねんしゅうき ことし
配分は3年周期になりました。今年はB
ねん ふくいん ろうどく
年にあたり、福音はマルコが朗読されて
しじゅんせつ ふっかつきつ いちじゅう
いますが、四旬節と復活節のため一時中
だん きょう せいしょ かしゅり
断していました。今日の聖書の箇所を理
かい はじ よ
解するためには、どうしても始めから読
ひつよう
んで見る必要があります。マルコによる
ふくいん
福音では、マタイとかルカのように、イ
エスの教えをあまり伝えていません。む
しろ、イエスの行ないを簡単に述べてい
ます。マルコではイエスそのものが福音
なのです。

こうどう み とうじ しゃ
イエスの行動を見ていると、当時の社
かい なか つみびと かみ みはな
会の中で罪人とみなされ、神から見離さ
ひと
れた人として、みんなからのけものにさ
れている人々のところに行って、「あな
かみ まね ひとびと い
たがたこそ神に招かれた人々だ」と言っ
まわ あんそくび ひと
て回ります。また、「安息日は、人のた
さだ しゅちょう だいたん こうどう
めに定められた」と主張し、大胆に行動
します。

へん じん
変人イエス

ことば おこ とうじ ひとびと
イエスの言葉と行ないは、当時の人々
じょうしきはず みうち
にとどけ、常識外れのことでした。身内
ひとびと じぶん みうち
の人々にしてみれば、自分たちの身内か
へんじん で いろいろ こま
ら、変人が出てもらっては色々と困った
かんが ちが
ことになると考えたに違いありません。
けんだい
このことは、現代でもよくあることだと
おも わたし よ
思います。しかし、イエスは私たちに呼び掛けています。たとえ、身内の人々から
じょうしきはず
ら、おまえは常識外れのことをしている
ひなん かみ こころ おこ
と非難されても、神のみ心を行なうよう
もと
にと求めています。

ねん はっぴょう きょうときょうく
1981年に発表された京都教区ビジ
わたし しゃかい
ョンでは、「私たちは、この社会のあり
かた げいこう しゃかい なか ひと
方に迎合するのではなく、社会の中、人々
ひと なか ふくいんてき
の中ににある福音的なものを、キリスト
たね う
のメッセージ、みことばの種として受け
い きょうりょう はんめん
入れ、それに協力すること、その反面、
しゃかい なか ひ にんげんてき ふくいん
社会の中にある非人間的なもの、福音の
せいしん はん たい
精神に反するものに対しては、はっきり
こえ あ けんめい ただ ひつよう
声を上げ、賢明にこれを正すことが必要
い

であると言えるでしょう」とあります。
げんだいしゃかい なか ふくいん せいしん
現代社会の中で、福音の精神にしたが
はづけん こうどう きょうりょう さて
って発言し行動すれば、給料が査定によ
^ へ しょく うしな
って減らされたり、職を失うことがある
かもしません。また、近所の人々から
白い目でみられるかもしれません。しかし、
イエスは私たちにも同じように行動
するよう求めているのです。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第10主日B年（滝野）